社団法人 環境科学会２０１０年会

プ　ロ　グ　ラ　ム

社団法人

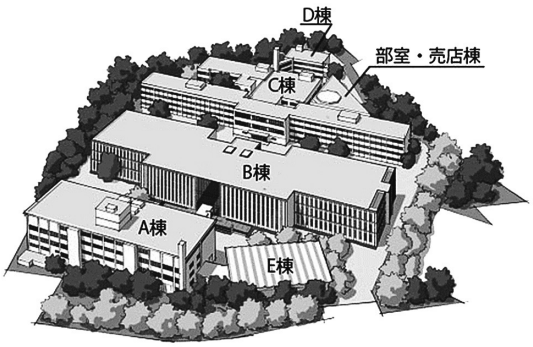
環　境　科　学　会

社団法人 環境科学会 2010 年会

日　時：2010 年 9 月 16 日（木）～ 9 月 17 日（金）
会　場：東洋大学白山第 2 キャンパス B 棟
※白山キャンパスではないので，ご注意ください。
〒 112-0001 東京都文京区白山 2 丁目 36-5
都営地下鉄三田線白山駅 A1 出口徒歩 6 分
東京メトロ南北線本駒込駅 1 番出口徒歩 10 分
http://www.toyo.ac.jp/access/hakusan2_j.html
※白山下交差点から白山第 2 キャンパスまでの通行路が狭くなっております。
ご通行時には地域住民へのご配慮をよろしくお願い申しあげます。

参加費：事前申込制度はありません。
当日，受付で参加票に必要事項をご記入の上，下記の参加費を添えて参加登録をお願い致します。（講演要旨集代を含む）
正会員 6,000 円　　準会員 3,000 円
非会員 9,000 円　　非会員学生 5,000 円

懇親会：9 月 16 日（木）18：30 ～ 20：30
東洋大学白山第2キャンパス食堂（C棟2階）
会費 5,000 円（社会人），1,000 円（学生）

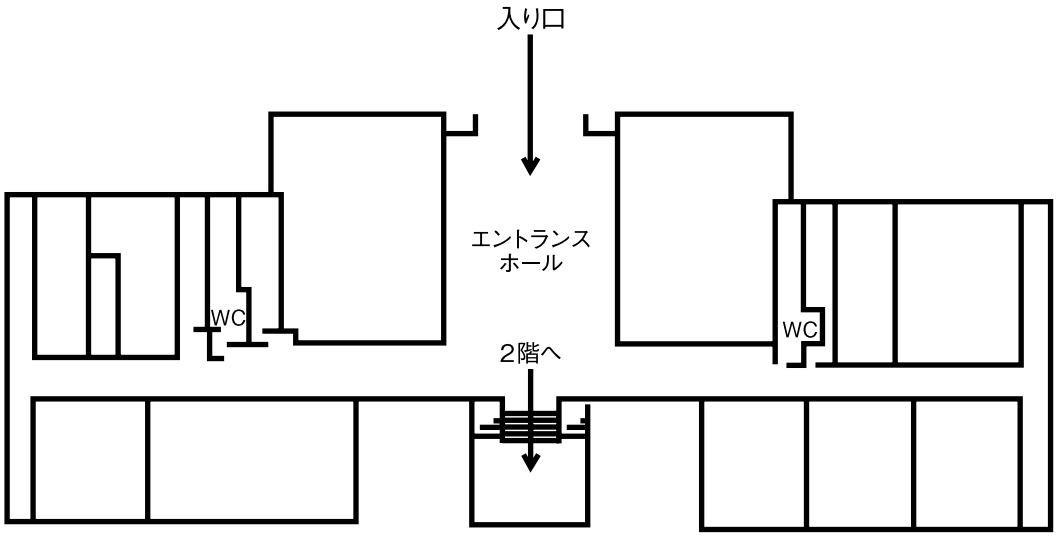


お問合せ先：

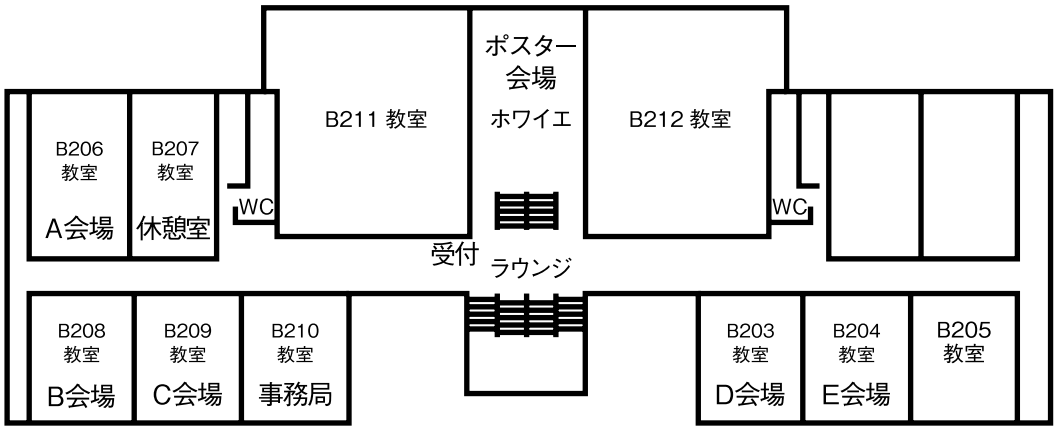
● 2010 年会実行委員会
東洋大学国際地域学部国際地域学科　荒巻俊也
〒 112-0001 東京都文京区白山 2 丁目 36-5
TEL. 03-5844-2223　FAX. 03-5844-2223
E-mail: aramaki@toyo.jp（お問合せはなるべく電子メールでお願いします）
● 環境科学会事務局
〒 135-0006 東京都江東区常盤 2-9-7
グリーンプラザ深川常盤 201
TEL. 03-3634-2942　FAX. 03-3634-2943
E-mail: office@ses.or.jp

会　場　案　内

（Ｂ　棟）


入り口
エントランス
ホール
WC
WC
２階へ

１　Ｆ


ポスター
会場
ホワイエ
B211 教室
B212 教室
B206
教室
A会場
B207
教室
休憩室
WC
WC
受付
ラウンジ
B208
教室
B会場
B209
教室
C会場
B210
教室
事務局
B203
教室
D会場
B204
教室
E会場
B205
教室

２　Ｆ

発表者の方々へ

１．参加登録

口頭発表，シンポジウムならびにポスター発表，いずれに関しても，必ず参加登録を行ってください。

２．発表時間

口　頭　発　表：15 分（発表 10 分，質疑応答及び入れ替え 5 分）

シンポジウム：オーガナイザーにお問い合わせください。

ポスター発表：9 月 16 日（木）11：00 までにポスターを所定の場所に掲示してください。
コアタイムは 9 月 16 日（木）12：15 ～ 13：15 です。発表者の方はポスター前にお集まりください。

３．発表方法

口頭発表

・PC プロジェクタとパソコン（Windows）を用意します。
・原則として OHP は用意いたしません。
・持参されたパソコンの接続はできません。必ずファイルを媒体に入れてご持参ください。
・媒体は CD-R，USB メモリのいずれかとします。
・ソフトは PowerPoint2003 となります。2007 のファイルは 2003 形式で保存をお願いします。
・PowerPoint のファイル名には，必ず発表者の氏名を含めてください。
・各セッション開始の 10 分前までに，発表会場のパソコンにファイルをコピーしてください。必要があれば，ファイルコピーを会場係がお手伝いしますが，発表時のパソコン操作は各自で行ってください。

シンポジウム

・PC プロジェクタとパソコン（Windows）を用意します。
・持参されたパソコンの接続については，オーガナイザーにご相談ください。
・媒体，ソフトについては，口頭発表と同様です。その他の機器を使われる場合は，オーガナイザーまでお問い合わせください。

ポスター発表

・掲示は 9：15 から行うことができます。
・掲示に必要な鋲，テープ等は事務局で用意いたします。
・パネルのサイズは横 88cm ×縦 198cm です。ポスターは A0 サイズ（縦）以内でご用意ください。
・机や電源などの掲示板以外の設備が必要な場合は，事前に実行委員会までメールでお問い合わせください。ご希望に沿えない場合もありますのでご了承ください。
・ 9 月 17 日（金）15：30 までに各自で撤去願います。多くの方に成果を見ていただけるよう，できるだけ長く掲示いただけるようお願い致します。
・規定時間を過ぎても撤去されていないポスターは，年会実行委員会が撤去・廃棄致しますことを，ご了承ください。

社団法人 環境科学会　2010 年会　プログラム

会場名		A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	ポスター会場
部屋番号		**B206**（180名）	**B208**（70名）	**B209**（70名）	**B203**（70名）	**B204**（70名）	ホワイエ
9月16日（木）	9:00						9:15から掲示できます
	9:30	S1 「ﾊﾞｲｵﾏｽ利活用評価の最前線」 **～学術賞受賞記念ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ～** 藤江幸一 9:30～12:15	S2 「化学物質のﾘｽｸ情報基盤と多様なﾘｽｸ評価の新展開」 小林　剛 9:30～12:15	口頭発表-1 都市・交通① 9:30～10:45	S3 「環境科学と大学の環境教育の体系化-歴史・現状・未来6-」 内山弘美 9:30～12:15	口頭発表-3 温暖化 9:30～10:45	
	10:00						
	10:30						
	11:00			**奨励賞受賞記念講演** 松橋啓介 口頭発表-2 都市・交通② 11:00～12:15		口頭発表-4 廃棄物 11:00～12:00	
	11:30						
	12:00						
	12:30						コアタイム 12:15～13:15
	13:00						
	13:30	**論文受賞記念講演** 奥村忠誠 口頭発表-5 生態系 13:30～14:45	S4 「自治体における低炭素づくりおよび都市間連携の可能性」 中口毅博 13:30～16:15	口頭発表-7 人体 13:30～14:30	S5 「持続可能な社会形成に向けた住民選好の把握とその環境施策への適用」 栗栖　聖 13:30～16:15	口頭発表-9 ﾊﾞｲｵﾏｽ① 13:30～14:45	
	14:00						
	14:30						
	15:00	口頭発表-6 教育 15:00～16:15		**奨励賞受賞記念講演** 岸本充生 口頭発表-8 リスク　15:00～16:00		口頭発表-10 ﾊﾞｲｵﾏｽ② 15:00～16:00	
	15:30						
	16:00						
	16:30	表彰式					
	17:00	**学会賞受賞記念講演** 内海英雄					
	17:30	特別講演 17:30～18:30 松尾友矩					
	18:30	懇親会（若手育成事業委員会表彰式を含む）18:30～20:30 「東洋大学食堂」 C棟2F					
9月17日（金）	9:00						
	9:30	口頭発表-11 情報・計画 9:30～10:45	S6 「理工系学生のための環境教育と持続可能な開発のための教育」 後藤尚弘 9:30～12:15	S7 「地域協働による環境市民活動の成果と課題」 山本佳世子 9:30～12:15	口頭発表-13 環境政策① 9:30～10:30	口頭発表-15 農業・食糧 9:30～10:45	
	10:00						
	10:30						
	11:00	**学会賞受賞記念講演** 原科幸彦 口頭発表-12 ｱｾｽﾒﾝﾄ 11:00～12:15			口頭発表-14 環境政策② 11:00～12:00	口頭発表-16 ｼﾐｭﾚｰｼｮﾝ 11:00～12:00	
	11:30						
	12:00						
	12:30						
	13:00						
	13:30						
	14:00		S8 「森林ﾊﾞｲｵﾏｽｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ-山を動かす-」 迫田章義 寺岡行雄 高梨啓和 14:00～16:45	S9 「環境政策における市場の機能と予算配分」 馬奈木俊介 14:00～16:45	口頭発表-17 産　業 14:00～15:15	口頭発表-19 化学物質 14:00～15:15	
	14:30						
	15:00						
	15:30				口頭発表-18 家　庭 15:30～16:45	口頭発表-20 処理技術 15:30～16:30	
	16:00						ﾎﾟｽﾀｰは15:30までに撤去願います
	16:30						

口　頭　発　表

（座長については交渉中です。）

【第1日目（9月16日）　午　前】

C会場（B209教室）　都市・交通①　（09：30～10：45）

座　長：松橋啓介（国立環境研究所）

1C-0930　Energy implications due to shading effect from nearby buildings and trees
○雷　　蕾（名大・院），一ノ瀬俊明（国環研 / 名大），井村秀文（名大）

1C-0945　低速電動車両の普及に向けた一提案
○近藤美則（国環研）

1C-1000　コベネフィット都市に向けた環境技術政策評価 ―川崎市における算定例―
○藤田　壮，藤井　実，陳　旭東，大西　悟（国環研）

1C-1015　低炭素都市への展開を目指した都市・街区単位の各種施策導入効果の検討
○平野勇二郎，藤田　壮（国環研），文屋信太郎，井上　剛（三菱総研）

1C-1030　東京都市圏の将来の土地利用と都市環境に関するシナリオ分析
山形与志樹，○瀬谷　創，中道久美子（国環研）

C会場（B209教室）　都市・交通②　（11：00～12：15）

座　長：平野勇二郎（国立環境研究所）

1C-1100　**奨励賞受賞記念講演**：持続可能な都市交通システムからみた低炭素都市の構築に関する分析
○松橋啓介（国環研）

1C-1130　地方自治体における自動車の CO_2 排出量現況値の推計に関する研究
○米澤健一，松橋啓介（国環研）

1C-1145　都市のコンパクト政策下における人口集積拠点の選定手法の構築に向けた基礎的分析
○植田純生，東海明宏（大阪大・院・工），山本祐吾（和歌山大・工）

1C-1200　移動手段の利用の現状と選択理由
○近藤美則（国環研）

E会場（B204教室）　温暖化　（09：30～10：45）

座　長：松本　亨（北九州市大・国際環境工）

1E-0930　全国市区町村別 CO_2 排出量分布特性の面積カルトグラム手法による分析
中道久美子，○山形与志樹（国環研），山崎　清，岩上一騎（（株）価値総合研）

1E-0945　CO_2 排出構造の国際比較分析 ―対数平均ディビジア指数法を用いて―
○高橋　暁（千葉大・院・園芸），甲斐　聡（（株）インテージ），丸山敦史（千葉大・院・園芸）

1E-1000　地球温暖化による洪水被害の経済活動への影響の評価に関する分析
森本　広（東工大），○増井利彦，肱岡靖明（国環研）

1E-1015　内生的技術変化を考慮した一国CGEモデルによる温暖化対策の経済分析
○松本健一（国環研）

1E-1030　国内外の温暖化対策の戦略分析
○吉村　玄（早大・環境エネ），高野　惇（早大・創造理工），西宮徳一（早大・環境エネ），
小野田弘士（早大・環境総研），永田勝也（早大・環境エネ）

E会場（B204教室）　廃棄物　（11：00～12：00）

座　長：増井利彦（国立環境研究所）

1E-1100　Estimating Garbage Reduction and Recycling Promotion under Unit-based Pricing:
An Application of the Multivariate Sample Selection Model
諏訪竜夫（北大），○碓井健寛（創価大）

1E-1115　容器包装を対象とした循環資源の広域移動に関する要因分析
○藤山淳史，松本　亨（北九州市大・国際環境工）
1E-1130　産業廃棄物税の施行前後に伴う産業廃棄物の発生・排出及び処理・処分状況の実態評価
○後藤正樹，伊藤一帆，鈴木嘉彦（山梨大・工）
1E-1145　産業廃棄物処理施設を対象とした安心につながる情報共有手法の高度化
○関悠一郎，伊原克将，切川卓也，村岡元司，小野田弘士，永田勝也（早稲田大）

【第1日目（9月16日）　午　後】

A会場（B206教室）　生態系　（13：30～14：45）
座　長：前田恭伸（静岡大・工）
1A-1330　**論文賞受賞記念講演**：中大型哺乳類の分布拡大に影響を与える要因の推定
○奥村忠誠，清水　庸，大政謙次（東大・院・農学生命）
1A-1400　富士・丹沢地域におけるツキノワグマを対象としたエコロジカルネットワーク策定計画
○土光智子（慶應義塾大･院･政策 / （独）日本学術振興会），福井弘道（慶應義塾大･総合政策），一ノ瀬友博（慶應義塾大・環境情報），Chen Wenbo（慶應義塾大・院・政策）
1A-1415　伊勢湾流域圏における森林生態系サービスの生産・消費の推定
○大場　真・村上正吾，王　勤学，木幡邦男（国環研）
1A-1430　プラスチック関連物質の海産生物への影響評価
○楠井隆史（富山県大・工），道祖土勝彦（日本大・薬）

A会場（B206教室）　教　育　（15：00～16：15）
座　長：一ノ瀬俊明（国環研 / 名大）
1A-1500　環境配慮型製品に対する消費者意識
○吉開大祐（近畿大・産業技術），依田浩敏（近畿大・産業理工）
1A-1515　鳥海高原における菜の花まつりの環境教育的意義
○金村静香，金澤伸浩，嶋崎善章，若井亮介（秋田県大・システム科学）
1A-1530　高等教育論（教育学）における「日本の大学の環境教育」研究の動向とパースペクティブ
―サステイナビリティ学教育プログラムを事例として―
○内山弘美（茨城大・地域総合研）
1A-1545　環境ボランティア獲得のための情報提供戦略
○前田恭伸（静岡大），森　保文（国環研），伊藝直哉（（株）インテージ），犬塚裕雅（コミュニティ・アクション・シンクタンク），淺野敏久（広島大），杉浦正吾（筑波大）
1A-1600　（仮）都市近郊の市民団体による竹林保全活動
○川口将武，榊原和彦，谷口興紀（大阪産業大・工）

C会場（B209教室）　人　体　（13：30～14：30）
座　長：岸本充生（産業技術総合研究所）
1C-1330　殺虫剤フェニトロチオンの塩素処理副生成物およびその変異原性物質生成能（MFP）
○岸田美紗子，加藤雄介，高梨啓和，中島常憲，大木　章（鹿大院・理工）
1C-1345　大気中での高リスクが懸念される六価クロムの全粒径および粒度別の測定と評価
○荻野洋佑，柳　一生，小林　剛（横浜国大・院・環情），三宅祐一（静岡県大・環科研），亀屋隆志，藤江幸一（横浜国大・院・環情）
1C-1400　大気中での高リスクが懸念される六価クロムの極低濃度測定手法の開発
○小林　剛，柳　一生，荻野洋佑（横浜国大・院・環情），三宅祐一（静岡県大・環科研），亀屋隆志，藤江幸一（横浜国大・院・環情）
1C-1415　環境中に排出される多様な化学物質の高懸念曝露シナリオのスクリーニング手法
○酒井　実，畠山周作，山田尚弘，小林　剛，亀屋隆志（横浜国大･院･環情），三宅祐一（静岡県大・環科研）

C 会場（B209 教室） リスク （15：00 ～ 16：00）

座　長：小林　剛（横浜国大・院・環情）

1C-1500　**奨励賞受賞記念講演**：説明責任の時代の基礎科学：リスク評価と社会経済分析
○岸本充生（産総研）

1C-1530　PRTR 情報を活用した複数物質による地域環境リスクの累計評価
○亀屋隆志，中村　功，小林　剛，藤江幸一（横浜国大・院・環情）

1C-1545　環境リスクに着目したナノテクノロジーの法規制に関する研究
― 予防原則の導入の観点から―
○中山敬太（早稲田大）

E 会場（B204 教室） バイオマス① （13：30 ～ 14：45）

座　長：高梨啓和（鹿児島大・理工）

1E-1330　北海道におけるバイオガスプラント導入に関する LCA
○矢部暢子（北大・院・地球環境科学）

1E-1345　北海道におけるバイオガス・プラント普及可能性の経済学的検討
○諏訪竜夫（北大・公共政策院）

1E-1400　中国長春市の大気汚染状況分析と再生可能エネルギー導入効果に関する研究
○崔　香玉，沈　志宏，氷鉋揚四郎（筑波大・生命科学）

1E-1415　中国における廃棄物エネルギー利用とその普及促進政策の評価
○李　松花（筑波大・生命環境）

1E-1430　中国長春市郊外における畜産廃棄物処理の総合評価に関する研究
○金　　彬（筑波大）

E 会場（B204 教室） バイオマス② （15：00 ～ 16：00）

座　長：氷鉋揚四郎（筑波大・生命環境科学）

1E-1500　高電圧印加を利用したバイオディーゼル燃料の精製
○高梨啓和，中島常憲，大木　章，甲斐敬美（鹿児島大・理工），舟川知也，伊庭　誠，丸山守人（キャメロンジャパン）

1E-1515　環境浄化用活性炭の実用化に向けた取組
―東京都で発生する未利用・廃棄物系木質バイオマスを原料として―
○萩原利哉，瓦田研介，井上　潤（都産技研），白石　稔，渡辺　昭（JCRA）

1E-1530　バイオマス利用と生態系サービスのマルチスケール相互連関分析
○齋藤　修（早稲田大・高等研）

1E-1545　低山地へのサトウキビ栽培拡大に関する要因分析
―フィリピン西ネグロス州を対象として―
○甲斐　聡（（株）インテージ），丸山敦史（千葉大・院・園芸），紀伊雅敦（香川大・工）

【第 2 日目（9 月 17 日） 午　前】

A 会場（B206 教室） 情報・計画 （09：30 ～ 10：45）

座　長：片谷教孝（桜美林大・リベラルアーツ）

2A-0930　中小企業経営における「環境配慮」の実態調査
○武者英之，永田勝也（早稲田大）

2A-0945　PRTR 移動量を用いた下水処理施設への毒性流入負荷の推算とその検証
○鳥海　航，亀屋隆志，小林　剛，藤江幸一（横浜国大・院・環情）

2A-1000　東京工業大学の各建物における電力消費量の実態
―勤務時間変更による省エネ効果試算のために―
○趙　紅姍，阿部直也（東工大・工）

2A-1015　包括的な多成分一斉分析法が適用可能な化管法対象物質の分類整理
○齋藤美穂（横浜国大・工学），亀屋隆志，小林　剛，藤江幸一（横浜国大・院・環情），三宅祐一（静岡県大・環科研）

2A-1030　廃棄物政策による甲府市の一般廃棄物量の変動分析
○島崎洋一，伊藤一帆，鈴木嘉彦（山梨大学）

A 会場（B206 教室）　アセスメント　（11：30 ～ 12：15）

座　長：小林　剛（横浜国大・院・環情）

2A-1130　社会的費用を考慮した都市インフラのストックマネジメント
○岩下達也，松本　亨（北九州市大・国際環境工）

2A-1145　中国の水資源におけるインフラ建設の影響に関する研究
○石　　峰，大西暁生，谷川寛樹，黄　　韜，森杉雅史，井村秀文（名古屋大・環境）

2A-1200　豊島事業の環境性・経済性の評価
永田勝也（早大・理工・機械工学），小野田弘士，永井祐二（早大・環境総研），切川卓也（早大・理工・機械工学），○築山　亮（早大・理工・環境エネ）

D 会場（B203 教室）　環境政策①　（09：30 ～ 10：30）

座　長：田崎智宏（国立環境研究所）

2D-0930　南極の海洋生態系保全のための国際協力とレジーム間の調整
○大久保彩子（東大・先端科学技術研）

2D-0945　地域気候政策の国を超えた協力のあり方に関する研究　―国際ネットワークの成果と課題―
○杉山範子，竹内恒夫（名古屋大・院・環境学）

2D-1000　多国間環境交渉の交渉過程における国家間の連合に関する考察
○瀬川恵子（環境省）

2D-1015　銅鉱業を主とする環境問題の現代的課題
○島崎光清（所属無）

D 会場（B203 教室）　環境政策②　（11：00 ～ 12：00）

座　長：杉山範子（名古屋大・院・環境学）

2D-1100　サステイナビリティーのための制御系をどのように設計するか？
○藤平和俊，大須賀公一（大阪大・院・工）

2D-1115　Design of environmental policy based on Equity and Efficiency
○沈　志宏，氷鉋揚四郎（筑波大・生命環境科学）

2D-1130　我が国の物質管理方策の変遷 ～有害物質管理から製品管理，資源・廃棄物管理まで～
○田崎智宏（国環研），石塚隆記（イー・アンド・イー ソリューションズ（株）），滝上英孝（国環研）

2D-1145　エネルギー・環境問題の展望に関する年代別比較分析
○島崎洋一（山梨大学）

E 会場（B204 教室）　農業・食糧　（09：30 ～ 10：45）

座　長：迫田章義（東大・生産技術研）

2E-0930　IMPACT-LUC モデルを用いた将来の食糧需給予測
○杉本賢仁（東大･EDITORIA），李　亮源（慶釜大），呉　文斌（中国農業科学院），柴崎亮介（東大・空間セ）

2E-0945　Development of a Global Scale Process-based Terrestrial-Biogeochemical-Nitrogen-Cycle (TBNC)
○李　正国，林　彬勒，匂坂正幸（産総研・安全科学）

2E-1000　県内自給自足と食物生産・輸送エネルギーの低減
○立花潤三（鳥取県産業技術セ), 迫田章義（東大･生産技術研), 門脇　亙, 山田　強, 玉井博康, 稲永　忍（鳥取県産業技術セ)，鈴木基之（放送大 / 東大）

2E-1015　農業農村整備事業におけるミティゲーションの経済評価
○伊藤寛幸（ルーラルエンジニア)，増田清敬（滋県大･環境)，笹木　潤（東農大･生物産業)，山本康貴（北大・農）

2E-1030　農業地帯を流れる河川とその河口・沿岸海洋の環境とメタンの動態
○窪田千穂（酪農大・院・酪農)，河島弘幸，土屋　愛，吉田　磨（酪農大・環境システム）

E 会場（B204 教室）　シミュレーション　(11：00 ～ 12：00)

座　長：松本安生（神奈川大・人間科学）

2E-1100　アジアの 7 大都市における都市温暖化の数値シミュレーション
○一ノ瀬俊明（国環研 / 名大)，原田一平（東京情報大)，豊田知世（地球研）

2E-1115　水文モデルを結合した琵琶湖流動場モデル・水質モデルの開発
○田上愛子，近藤　明，井上義雄，加賀昭和（大阪大・院）

2E-1130　システムダイナミックスモデルを用いた日本での医療廃棄物発生量予測
○尾原佳純，後藤尚弘（豊橋技術科大・工）

2E-1145　難分解性の漂着ごみの砂浜上の分布と移動変化
○岡野多門，池田圭吾，安東重樹，築田哲也，安本　幹（鳥取大・院・工）

【第 2 日目 (9 月 17 日)　午　後】

D 会場（B203 教室）　産　業　(14：00 ～ 15：15)

座　長：後藤尚弘（豊橋技術科学大・環境）

2D-1400　CSR レポートを対象とした生物多様性対応活動の産業別指向性分析
○加藤　悟，松井孝典，瀧下雄大，町村　尚（大阪大・工）

2D-1415　中小企業の環境配慮型経営の促進要因に関する研究　―川崎市の事例―
○孫　　穎（国環研･アジア自然 G)，渡邉雅士（内閣官房情報セキュリティセ)，藤田　壮（国環研・アジア自然 G）

2D-1430　国内製造業の環境技術特許と財務パフォーマンスの因果関係性分析
○藤井秀道（東北大)，八木迪幸（東北大)，馬奈木俊介（東北大)，金子慎治（広島大）

2D-1445　市場は企業の潜在的なリスクを評価するか？：日本における実証分析
○小俣幸子（東工大・社会理工）

2D-1500　海外を含む地域に密着した事故・ヒヤリマップシステムの開発
根岸貴紀，築山　亮，○平松信人（早大･環エネ)，切川卓也，小野田弘士（早大･環境総研)，永田勝也（早大・環エネ）

D 会場（B203 教室）　家　庭　(15：30 ～ 16：45)

座　長：松本　亨（北九州市大・国際環境工）

2D-1530　地球温暖化が冬季の衣料品の消費に及ぼす影響の予測
○中口毅博，橋　昴希（芝浦工業大・環境システム）

2D-1545　モンゴル小村家庭の意識・ライフスタイルが消費・廃棄量に与える影響
○藤平　淳，後藤尚弘（豊橋技科大)，蒲原弘継（産総研)，橘　隆一，藤江幸一（横浜国大)，大藪千穂，杉原利治（岐阜大）

2D-1600　IT サービスを含めた製品の利用形態を考慮した環境負荷評価
中嶋崇史，○久保田和樹（早大・環エネ)，小野田弘士（早大・早大環境総研)，永田勝也（早大・環エネ）

2D-1615　発表中止

2D-1630　太陽光発電パネルの普及に伴う CO_2 排出削減効果と希少資源確保・有害物質管理に関する一考察
○高石昌幸，東海明宏（大阪大・院・工），山本祐吾（和歌山大・工）

E 会場（B204 教室）　化学物質　（14：00 ～ 15：15）
座　長：山本佳世子（電気通信大・院・情報）

2E-1400　Multimedia Model を用いた過去 50 年間の淀川流域での鉛の動態解析
○山本　恵，近藤　明，井上義雄，加賀昭和（大阪大・院）

2E-1415　SS の挙動に着目したダイオキシン類のマルチメディアモデル
○加賀昭和（元大阪大・工），鶴川正寛（兵庫県），近藤　明，井上義雄（大阪大・工）

2E-1430　GC/MS 一斉分析可能な化管法対象 282 物質の検出頻度 ―神奈川県内の河川で―
○勝俣宏信，亀屋隆志，小林　剛，藤江幸一（横浜国大･院･環情），三宅祐一（静岡県大･環科研）

2E-1445　河川及び河川近辺土壌の残留農薬一斉分析
○金城実倫，中道隆広（長総大・環），豊田真治（(株）環境衛生科学研），竹本直道（長総大・環），石橋弘志（愛媛大･環境科学研究セ），有薗幸司（熊本県大･環），石橋康弘（長総大･環）

2E-1500　環境化学物質の一斉分析と生態毒性試験による毒性影響要因の検討
○小池瑛子（横浜国大・工学），亀屋隆志，小林　剛，藤江幸一（横浜国大・院・環情）

E 会場（B204 教室）　処理技術　（15：30 ～ 16：30）
座　長：風間ふたば（山梨大・院・医工）

2E-1530　光触媒担持材料と太陽光利用による工業廃液タンクの悪臭低減効果
○桐谷久恵，弥永　都，大西信夫，砂田香矢乃（東大･先端研），橋本和仁（東大･院工／東大･先端研）

2E-1545　障害調整生存年を指標としたカドミウム汚染土壌に対するファイトレメディエーションの評価
○井上　康，坂口　巌，(名古屋大･エコトピア)，竹中千里（名古屋大･生命農学)，片山新太（名古屋大・エコトピア）

2E-1600　ホウ素含有排水の処理技術に対する障害調整生存年を指標とした評価
○坂口　巌，井上　康（名古屋大･エコトピア），笹井　亮（島根大･総合理工），片山新太（名古屋大・エコトピア）

2E-1615　廃石膏ボードを用いたホウ素含有廃水処理技術の確立
○中道隆広，酒井　篤（長総大･院）有薗幸司（熊県大･環境），甲斐穂高（日本分析化学専校），竹本直道（長総大･院)，村山なつき（長総大･環)，内田雅也，草野輝彦（(株）エコジェミックス），石橋康弘（長総大・院・工）

ポスター発表（優秀発表賞応募発表も含む）

掲示可能期間：　**9月16日（木）**09：15～**9月17日（金）**15：00（15：30までに各自撤去願います）
コアタイム：　9月16日（木）12：15～13：15（発表者はこの間，必ずポスター前にお集まりください）

P-01　水銀電極法塩素製造プラントに由来する水銀汚染－開発途上国における現状について－
○吉田充夫（国際協力機構）

P-02　千葉県下総台地における表流水の硝酸態窒素濃度の時空間分布
○郡　佑輔（千葉大･院･理学研究科），黄　　琳（千葉大･院･理学研究科），近藤昭彦（千葉大･環境リモートセンシング研究センター）

P-03　産廃運動に科学的根拠は必要か？
○高倉弘士（立命館大院･社），畠山貴博（初芝富田林高），島　和嗣（金剛高），小松知貴，大垣　旭（河南高），久保光平（四天王寺羽曳丘高），畠山光弘（畠山獣医科）

P-04　トウゴマ種子発芽初期の硝酸還元活性及び発芽に及ぼす重金属イオンの影響
○島　和嗣（金剛高），畠山貴博（初芝富田林高），小松知貴，大垣　旭（河南高），久保光平（四天王寺羽曳丘高），高倉弘士（立命館大・院・社），畠山光弘（畠山獣医科）

P-05　伊賀市産業廃棄物処分場水質汚濁防止調停申請事件にみる安定型処分場の違法廃棄物の実態と調停内容の問題点
○畠山貴博（初芝富田林高），島　和嗣（金剛高），大垣　旭，小松知貴（河南高），久保光平（四天王寺羽曳丘高），高倉弘士（立命館大・院・社），畠山光弘（畠山獣医科）

P-06　地球温暖化による気温上昇が日本の農業生産に及ぼす経済的影響
○金　起龍（北大･農），澤内大輔（農水省･政策研），増田清敬（滋県大･環境），金子真也（北大･農），吉田裕介（北大・農），師　耀軒（北大・農），山本康貴（北大・農）

P-07　林内における地表流流出特性と数値モデルの適用性の検討
○池田英史，若松孝志，中屋　耕，阿部聖哉（電力中央研究所）

P-08　Situation with life and environmental science education available for a secondary school pupil in Japan and Ukraine
○ Fomichova Kseniya，風間ふたば（山梨大・院・工）

P-09　発表中止

P-10　三海（瀬戸内海，日本海，太平洋）の海産生物中の元素濃度の比較
○張　　蒙，猶原　順，内田健介，逸見和也，八杉俊行（岡山理科大・院・総合理学）

P-11　促進酸化処理による高濃度有機ハロゲン化合物の分解
○八杉俊行，猶原　順，張　　蒙，永田知美（岡山理科大・院・総合理学）

P-12　有機物に着目した利根川感潮域底質の時空間的分布
○山崎賢一（東京工大･総合理工），坂上伸生，渡邊眞紀子（首都大･都市環境），石川忠晴（東京工大･総合理工）

P-13　清掃工場の更新シナリオとエネルギー消費に関する研究
○長岡耕平（和大・院・システム工学），吉田　登，金子泰純（和大・シス工）

P-14　最適なリチウムイオン電池のリサイクル
○半井悠太（金沢工大・ビジネスアーキテクト），土佐光司，鈴木康允（金沢工大）

P-15　樹脂需要量にもとづく難燃剤の廃棄量と市中ストック量の推定
○恒見清孝，川本朱美（産総研・安全科学）

P-16　キャベツの銅蓄積を定める細胞レベルの銅吸収
○田中優也，庄司　良（東京工業高専・物質工学）

P-17　日中韓の大気汚染物質と気候変動政策の変化
○金　斗元（立命館大・政策科学）

P-18　自然共生社会構築のための東洋環境思想の可能性
○大場　真（国環研）

P-19　河川景観の生理的指標に及ぼす影響の評価
武藤由香里（富士通エフ・アイ・ピー），下川敏雄（山梨大・院・医工総合），石田光男（至学館大・健康科学），○御園生拓，北村眞一（山梨大・院・医工総合）

P-20　学内におけるリサイクル PET ボトルの回収と学内グッズの製品化
○山田和志（京都工繊大・伝統みらい），居野家博之（環境工房），Leong Yew Wei，濱田泰以（京都工繊大・先端ファイブロ）

P-21　CO_2 排出量削減を目指した天然繊維プラスチックに関する研究
○陽　玉球（京都工繊大・ベンチャーラボラトリー），山田和志（京都工繊大・伝統みらい），太田智子（NPO 法人伝統みらい），濱田 泰以（京都工繊大・先端ファイブロ）

P-22　臭素系難燃剤ヘキサブロシクロドデカン（HBCD）の曝露量推計
○岩田智秀，（横浜国大・院・環境情報学府），中井里史（横浜国大・院・環境情報研究院）

P-23　山梨県甲府都市圏の自家用車と公共交通機関の利用における進化心理学的研究
○御園生拓，五味直哉（山梨大・院・医工総合）

P-24　産業環境システムの耐リスク性－ PBDE の再評価に向けて－
○中澤　暦，東海明宏（大阪大・工）

P-25　IT サービスを含めた製品の利用形態を考慮した環境負荷評価
中嶋崇史，○久保田和樹（早大・環エネ），小野田弘士（早大・早大環境総研），永田勝也（早大・環エネ）

P-26　Energy implications due to shading effect from nearby buildings and trees
○雷　　蕾（名大・院），一ノ瀬俊明（国環研 / 名大），井村秀文（名大）

P-27　富士・丹沢地域におけるツキノワグマを対象としたエコロジカルネットワーク策定計画
○土光智子（慶應義塾大・院・政策 /（独）日本学術振興会），福井弘道（慶應義塾大・総合政策），一ノ瀬友博（慶應義塾大・環境情報），Chen Wenbo（慶應義塾大・院・政策）

P-28　中国長春市の大気汚染状況分析と再生可能エネルギー導入効果に関する研究
○崔　香玉，沈　志宏，氷鉋揚四郎（筑波大・生命科学）

P-29　廃石膏ボードを用いたホウ素含有廃水処理技術の確立
○中道隆広，酒井　篤（長総大・院），有薗幸司（熊県大・環境），甲斐穂高（日本分析化学専校），竹本直道（長総大･院），村山なつき（長総大･環），内田雅也，草野輝彦（（株）エコジェミックス），石橋康弘（長総大・院・工）

P-30　意識構造を反映した家庭用エネルギーのベストミックスに関する研究
○瀬脇康弘，松本　亨（北九州市大・国際環境工）

P-31　鳥海高原における菜の花まつりの環境教育的意義
○金村静香，金澤伸浩，嶋崎善章，若井亮介（秋田県大・システム科学）

P-32　容器包装を対象とした循環資源の広域移動に関する要因分析
○藤山淳史，松本　亨（北九州市大・国際環境工）

P-33　Design of environmental policy based on Equity and Efficiency
○沈　志宏，氷鉋揚四郎（筑波大・生命環境科学）

P-34　河川及び河川近辺土壌の残留農薬一斉分析
○金城実倫，中道隆広（長総大・環），豊田真治（（株）環境衛生科学研），竹本直道（長総大・環）石橋弘志（愛媛大・環境科学研究セ），有薗幸司（熊本県大・環），石橋康弘（長総大・環）

P-35　北海道におけるバイオガス・プラント普及可能性の経済学的検討
○諏訪竜夫（北大・公共政策院）

P-36　環境中に排出される多様な化学物質の高懸念曝露シナリオのスクリーニング手法
○酒井　実，畠山周作，山田尚弘，小林　剛，亀屋隆志（横浜国大･院･環情），三宅祐一（静岡県大･環科研）

P-37　大気中での高リスクが懸念される六価クロムの全粒径および粒度別の測定と評価
○荻野洋佑，柳　一生，小林　剛（横浜国大･院･環情），三宅祐一（静岡県大･環科研），亀屋隆志，藤江幸一（横浜国大・院・環情）

P-38　農業地帯を流れる河川とその河口・沿岸海洋の環境とメタンの動態
○窪田千穂（酪農大・院・酪農），河島弘幸，土屋　愛，吉田　磨（酪農大・環境システム）

P-39　包括的な多成分一斉分析法が適用可能な化管法対象物質の分類整理
○齋藤美穂（横浜国大･工学），亀屋隆志，小林　剛，藤江幸一（横浜国大･院･環情），三宅祐一（静岡県大・環科研）

P-40　GC/MS 一斉分析可能な化管法対象 282 物質の検出頻度―神奈川県内の河川で―
○勝俣宏信，亀屋隆志，小林　剛，藤江幸一（横浜国大･院･環情），三宅祐一（静岡県大･環科研）

P-41　PRTR 移動量を用いた下水処理施設への毒性流入負荷の推算とその検証
○鳥海　航，亀屋隆志，小林　剛，藤江幸一（横浜国大・院・環情）

P-42　環境化学物質の一斉分析と生態毒性試験による毒性影響要因の検討
○小池瑛子（横浜国大・工学），亀屋隆志，小林　剛，藤江幸一（横浜国大・院・環情）

P-43　国内外の温暖化対策の戦略分析
○吉村　玄（早大・環境エネ），高野　惇（早大・創造理工），西宮徳一（早大・環境エネ），小野田弘士（早大・環境総研），永田勝也（早大・環境エネ）

P-44　中国における廃棄物エネルギー利用とその普及促進政策の評価
○李　松花（筑波大・生命環境）

P-45　環境配慮型製品に対する消費者意識
○吉開大祐（近畿大・産業技術），依田浩敏（近畿大・産業理工）

P-46　海外を含む地域に密着した事故・ヒヤリマップシステムの開発
根岸貴紀，築山　亮，○平松信人（早大・環エネ），切川卓也，小野田弘士（早大・環境総研），永田勝也（早大・環エネ）

P-47　社会的費用を考慮した都市インフラのストックマネジメント
○岩下達也，松本　亨（北九州市大・国際環境工）

企画シンポジウム

（現在調整中のものを含みます）

【　1日目　】

シンポジウム1　9月16日（木）　A会場　09：30～12：15

学術賞受賞記念シンポジウム

「バイオマス利活用評価の最前線」

オーガナイザー　藤江幸一（横浜国立大学　大学院環境情報研究院）教授

挨　　拶：藤江幸一（横浜国立大学　大学院環境情報研究院）

趣旨説明：バイオマス利活用技術はマリンバイオの開発等の新たな展開を見せている。一方，バイオマス利活用の評価についてもエネルギー収支，温室効果ガス収支に加えて，生態系，社会性への影響が検討されている。本シンポジウムはバイオマス評価研究の最前線にいる方々をお迎えして，評価研究の今後の展開を討論する。

講 演 者：①「バイオマス利活用における効果と課題」
藤江幸一（横浜国立大学）

②「エネルギー植物の大規模なプランテーションによる生態系への影響評価」
林　彬勒（(独）産業技術総合研究所）

③「消火液を液肥利用するメタン発酵システムの評価」
中村真人（農研機構 農村工学研究所）

④「バイオマス利活用技術導入の意思決定」
Rafael Batres（豊橋技術科学大学）

⑤「真に環境問題に貢献するバイオマス利活用とは？」
松田　智（静岡大学）

総合討論

シンポジウム2　9月16日（木）　B会場　09：30～12：15

「化学物質のリスク情報基盤と多様なリスク評価の新展開」

オーガナイザー　小林　剛（横浜国立大学　大学院環境情報研究院）准教授

挨　　拶：片谷教孝（桜美林大学　リベラルアーツ学群）

趣旨説明：小林　剛（横浜国立大学　大学院環境情報研究院）
化学物質の多種類，大量使用，環境排出に伴う，多様なリスクについて，SAICM等の国際的な取り組みとともに，国内でも新たな行政的な取り組み，新たなリスク評価研究の動きが活発になってきている。本シンポジウムでは，化学物質リスク研究に携わる主要な研究機関などでの，最新動向や研究の取り組みについて講演をいただき，今後の化学物質のリスク情報の整備，リスクの評価研究の方向性について考えたい。

講 演 者：①「改正化審法におけるリスク評価と情報基盤」
村田麻里子（製品評価技術基盤機構　化学物質管理センター）

②「産総研のリスク評価研究－リスクトレードオフ解析とナノ材料のリスク評価－」
内藤　航（産業技術総合研究所　安全科学研究部門）

③「環境中低濃度化学物質の曝露・リスク研究と，関連データベース・予測システム」
櫻井健郎（国立環境研究所　環境リスク研究センター）

④「化学物質のフィジカルリスク情報と非定常リスク影響評価」
木村新太（労働安全衛生総合研究所　化学安全研究グループ）

⑤「化学物質の健康リスク情報と曝露シナリオ」
三宅祐一（静岡県立大学　環境科学研究所）

⑥「化学物質のライフサイクルに亘るリスク評価の試み」
益永茂樹　（横浜国立大学　大学院環境情報研究院）
総合議論 / 総括（総合コメンテーター）
中杉修身　（元上智大学　大学院地球環境学研究科）

シンポジウム3　9 月 16 日（木）　D 会場　09：30 ～ 12：15
環境科学と大学の環境教育の体系　－歴史・現状・未来6 －
「環境冠大学院のサスティナビリティ大学院環境教育プログラム」
オーガナイザー　内山弘美（茨城大学　地球総合研究所）客員研究員

挨　　拶：内山弘美（茨城大学　地球総合研究所）
趣　　旨：本シンポジウムは，本学会設立以前から，筑波大学大学院環境科学研究科をはじめとする環境冠大学院・環境冠学科，科研費環境科学特別研究，及び環境科学シンポジウムの場でなされてきた，環境科学と大学・大学院レベルの環境教育に関する議論の理念を継承し，発展させることを目指し，過去 5 回開催した。具体的には，環境冠学科（環境を冠する学部・学科・大学院の総称）を対象として，高等教育政策･制度･組織的側面を中心とするアプローチにより，大学・大学院レベルの環境教育の俯瞰を行ってきた。
今回は環境冠大学院において大学院が提供する正規のカリキュラムとは別に，主として外部資金により運営されている「大学院環境教育プログラム」を事例として，実施組織，単位認定，養成する人材像，カリキュラム等の特徴と諸課題，及び解決策に関する議論を行う。
講 演 者：第Ⅰ部　趣旨説明　環境冠大学における大学院環境教育プログラム
①「環境冠大学院のサスティナビリティと大学院環境教育プログラム」
内山弘美（茨城大学　地域総合研究）
②「北海道大学・南極学カリキュラム　－その歩みと国際南極大学への展開－」
杉山　慎（北海道大学　低温科学研究所＆環境科学院）（予定）
③「環境ディプロマティックリーダーの育成拠点　－新しい環境人材を目指して－」
辻村真貴（筑波大学　大学院生命環境科学研究科）（予定）
④「東北大学大学院環境科学研究科における高度社会人環境人材養成プログラムの現状と課題」
古川柳蔵（東北大学　大学院環境科学研究科）（予定）

第Ⅱ部　総合討論
司会：内山弘美
コメンテーター（交渉中 3 名）

シンポジウム4　9 月 16 日（木）　B 会場　13：30 ～ 16：15
「自治体における低炭素づくりおよび都市間連携の可能性」
オーガナイザー　中口毅博（芝浦工業大学　環境システム学科）教授

挨　　拶：中口毅博（芝浦工業大学　環境システム学科）
趣旨説明：昨年のシンポジウムにおいては，中・長期の目標達成にむけた地球温暖化対策について討議したが，実効ある温暖化対策を進める上で多くの課題が存在することが明らかになった。そこで本シンポジウムでは，これらの課題を解決するための基礎的知見を得るとともに，政策を促進するための各種条件について明らかにすることを目的とする。例えば都市特性と温室効果ガス排出特性との関係，政策の効果性・有効性，施策の立案過程と波及過程などを解明することにより，今後の低炭素社会づくりや都市間連携の可能性について討議したい。
講 演 者：①「自治体温暖化対策実行計画の動向と策定課題に関する研究」
田中　充（法政大学）

②「日本の市町村における CO_2 排出特性と地域特性の関係分析」
中口毅博（芝浦工業大学　環境システム学科）
③「自治体における低炭素施策の費用対効果に関する考察」
増原直樹（環境自治体会議環境政策研究所）
④「産業・業務部門における低炭素都市政策の波及と広域連携の可能性」
馬場健司（(財) 電力中央研究所）
⑤「市民による環境保全活動と国際協力：エコポイント事業に着目して」
加藤尊秋（北九州市立大学）

シンポジウム5　9月16日（木）D会場　13：30～16：15
「持続可能な社会形成に向けた住民選好の把握とその環境施策への適用」
オーガナイザー　栗栖　聖（東京大学・先端科学技術研究センター）講師

挨　　拶：栗栖　聖（東京大学・先端科学技術研究センター）
趣旨説明：住民の現行動や意識を反映した環境施策の構築が，様々な場面で望まれている。本シンポジウムでは，住民の意識，行動をどのように把握すればよいか，また住民行動を促すためにはどのような情報提供や支援が有り得るのか，を主に議論する。本趣旨に則り，シンポジウムは以下の3部より構成する。I部では，環境行動の規定因と情報がもたらす効果について，環境心理学，LCA（ライフサイクルアセスメント），及びリスクコミュニケーションの各分野専門家からの講演を予定している。第Ⅱ部では，特に家庭での環境配慮行動に関する研究事例を，第Ⅲ部では，住民選好をどのように把握していくか，その評価手法に関する研究を紹介し，今後の研究及び施策構築に向けた方向性について議論する。
講 演 者：第I部　環境行動の規定因と情報がもたらす効果；基調講演
①「環境配慮行動の心理学的規定因子とその応用」
広瀬幸雄（名古屋大学）
②「LCA情報による消費者の環境配慮行動支援の可能性」
平尾雅彦（東京大学）
③「環境コミュニケーションにおいて数量情報等がもたらす効果」
広田すみれ（東京都市大学）

第Ⅱ部　家庭における環境配慮行動支援に関する研究
①「消費志向を考慮した環境配慮行動実践の構造分析」
－間接排出を考慮した低炭素型生活行動の提案に向けて－
栗島英明（芝浦工業大学）
②「全国を対象とした家庭における環境配慮行動分析」
青木えり（東京大学）
③「環境配慮行動を促進するための家庭における消費行動のライフサイクル評価」
新保雄太（東京大学）

第Ⅲ部　様々な環境施策評価に対する住民選好分析手法の適用
①「潜在クラス分析による住民類型化を用いた都市河川に対する価値評価構造の把握」
大塚佳臣（東洋大学）
②「AHP（階層分析法）を用いた都市分散型水利用への住民選好の把握」
荒巻俊也（東洋大学）
③「都市縮退に伴う余剰地利用に関する住民選好の一対比較分析」
中谷　隼（東京大学）
総合討論

【　2日目　】

シンポジウム6　　9月17日（金）　B会場　09：30～12：15

「理工系学生のための環境教育と持続可能な開発のための教育」

オーガナイザー　後藤尚弘（豊橋技術科学大学　環境・環境工学系）准教授

挨　　拶：後藤尚弘（豊橋技術科学大学　環境・環境工学系）

趣旨説明：持続可能な社会を形成するために，環境教育と持続可能な開発のための教育（Education for Sustainable Development）の重要性は増すばかりである。しかしながら，学習目標の設定，既存カリキュラムとの共存，産業界・NGOとの連携，卒業学生の就職等，課題は多くある。本シンポジウムでは，環境教育とESDを特定の学生に実施して専門家を育てるプログラムと，一般の理工系学生が身につけるべきリテラシーとしてのプログラムの方向性について各高等教育機関からの発表を通して議論を行う。

講 演 者：①「単科工科大学における全学環境教育の実施と評価
－富山型環境リテラシーモデルを事例にして」
九里徳泰（富山県立大学）

②「高専間連携による環境教育の実施と評価」
箕田充志（松江工業高等専門学校）

③「高専におけるESDの必要性と，導入する科目や教育手法について」
伊藤通子（富山高等専門学校）

④「農工系大学における現場立脚型環境リーダーの育成」
下ケ橋雅樹（東京農工大学）

⑤「Field-Orinted Environmental Leadership Education in Asia」
AN Kyoung-Jin（東京大学）

⑥「工学部学生のための環境教育とESD」
後藤尚弘（豊橋技術科学大学）

シンポジウム7　　9月17日（金）　C会場　09：30～12：15

「地域協働による環境市民活動の成果と課題」

オーガナイザー　山本佳世子（電気通信大学　大学院情報システム学研究科）准教授

挨　　拶：山本佳世子（電気通信大学　大学院情報システム学研究科）

趣旨説明：今日の環境問題には様々なものがあり，対象とする空間スケールの規模，人間との関わり合いの程度などによって，地球環境問題，地域環境問題，生活環境や居住環境に関わる問題，健康障害に関わる問題など，いくつかの種類に分類することができる。そして環境問題には，様々な地域の構成要素が複合的に絡み合っている。一方，私達にとって身近な地域の環境問題に着目すると，市民・住民，NPO/NGO，行政，企業・事業者，研究者・専門家等の主体が各々の立場で，地域環境の担い手となり，地域環境問題に取り組んでいる。
このような状況を踏まえ，本シンポジウムでは，地域連携による環境市民活動のこれまでの成果と課題について，報告者からご報告いただく。さらに，ご報告を受けて，参加者とともに，地域協働による環境市民活動の今後の展開について議論を行う。

講 演 者：①「公共視点と個別視点を統合した農家参加型普及による住民との地域連携」
安江紘幸（東北大学）

②「都市近郊の市民団体による竹林保全活動から地域協働活動への展開」
川口将武（大阪産業大学）

③「小学校ビオトープをめぐる地域協働活動」
木村美智子（茨城大学）

④「都市部における市民の水辺空間利用のための地域協働」
奈良朋彦（東京工業大学）

⑤「都市部における一般廃棄物削減を目的とした地域協働活動」
山本佳世子（電気通信大学）
コメント　和泉　潤（名古屋産業大学）
森下英治（愛知学院大学）
総合討論

シンポジウム8　9月17日（金）　B会場　14：00～16：45
「森林バイオマスシンポジウム　－山を動かす－」
オーガナイザー　迫田章義（東京大学　生産技術研究所）教授
寺岡行雄（鹿児島大学　農学部生物環境学科）准教授
高梨啓和（鹿児島大学　大学院理工学研究科）准教授

挨　　拶：迫田章義（東京大学　生産技術研究所）
趣旨説明：欧州を中心に，森林バイオマスの利活用が活発化している。わが国の森林資源は，北欧と比較しても遜色ない大変有望な資源である。直接燃料，ガス化，液化あるいは発酵といった変換技術や，木質ペレットやチップ製造といった加工に係わる要素技術は，実用・実証段階のものが多い。しかし，賦存量が大きい一方で，実際の利用可能量の把握は十分とは言えず，利活用が本格的に進んでいるとは言い難い。本シンポジウムでは，今後，この森林バイオマス資源を有効に活用していくために，各変換技術で求められる性状や量等に関する情報をもとに，利用プラントまで供給するための技術と制度などについて議論し，問題点を抽出・整理したい。
講 演 者：第Ⅰ部
①「木質ボイラーへ供給される燃料の条件」
岡本利彦（(株) トモエテクノ）
②「石炭火力発電での木質燃料混燃のために必要となる燃料供給の条件」
未定（電力会社）（交渉中）
③「木質ガス化のための燃料供給条件について」
笹内謙一（中外炉工業（株）開発センター）
討　論：「木質バイオマス燃料に求められる質的，量的条件を取りまとめる」

第Ⅱ部
①「国内の林業生産システムについて」
寺岡行雄（鹿児島大学 農学部）
②「国内木質バイオマス燃料生産の状況について」
香月英伸（林野庁木材利用課）
③「需要に見合った木質燃料の供給を可能とするためには」
久保山裕史　（森林総合研究所 林業経営・政策研究領域）
討　論：「国内森林バイオマスを動かすにはどうすればよいか」

シンポジウム9　9月17日（金）　C会場　14：00～16：45
「環境政策における市場の機能と予算配分」
オーガナイザー　馬奈木俊介（東北大学　大学院環境科学研究科）准教授

挨　　拶：馬奈木俊介（東北大学　大学院環境科学研究科）
趣旨説明：新しい環境政策の考え方について提案を行い，議論する。取引市場を用いる方法等，複数の政策手段が考えられるときにどのように政策を評価すべきか提案を行う。
講 演 者：①「望ましい国内排出量取引制度とは？」
小谷浩示　（国際大学 国際関係学研究科）

②「生物多様性を守るために，市場制度は利用できるか？」
田中健太（東北大学 大学院環境科学研究科）
③「コンパクトシティは環境改善に繋がるか？」
岩田和之（東北大学 大学院環境科学研究科）
④「グローバルな生態系復元に関する最適投資ポートフォリオ分析」
蒲谷　景（IGES）
⑤「排出権価格と原油価格の因果性分析」
伊藤　豊（東北大学 大学院環境科学研究科）
⑥「幸福指標と経済指標の関係：代替指標足り得るか？」
鶴見哲也（東京大学 大学院新領域創成科学研究科）
※本講演は，「**優秀研究企画賞**（2009 年富士電機賞）」を兼ねる。
馬奈木俊介（東北大学 大学院環境科学研究科）

特別講演プログラム

9 月 16 日（木） A 会場　17：30 ～ 18：30

「サステイナビリティ学と共生学の展望－持続可能な社会実現への条件」（仮）

講　師：　松　尾　友　矩（東洋大学）常勤理事・名誉教授